

## はじめに

2014年2月24日に学士会館（東京都千代田区）にて「くらしからの省エネを進める政策デザイン研究国際ワークショップ～英国グリーンディール政策を参考に～」を開催した。日本のくらしの省エネを大幅に進める政策のデザインを、オールジャパンにて行うことを目的に、英国の先進的政策であるグリーンディール政策の実務担当者による講演、日本のくらしの省エネ推進に関与する経済産業省・環境省・国土交通省の担当者による講演、そして講演者との意見交換を通じて政策デザインの提案を行った。

参加者は54名であり、エネルギー・建築・家電・IT等関連企業、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省等の各省、地方自治体、エネルギーや建築関連の研究所、金融機関、大学といった、政策形成・実施に直接関わるステークホルダー候補の参加を多くいただいた。

ワークショップは三部構成とし、第一部「英国の取組と課題」として、アラン・クリフォード氏（英・エネルギー気候変動省）からグリーンディール政策の枠組みについて、ジョナサン・ハーレー氏（英：グリーンディール登録管理機構）からグリーンディール政策の実態について講演をいただいた。二名の講演を通じ、WEBサイト等文献情報からはわからない政策過程や、現場の状況が伝わり、政策が実際に動いていることが参加者にも感じられたことと推察する。

第二部「日本の取組と課題」では、経済産業省、環境省、国土交通省から、各省が実施する省エネ政策の現状について、講演いただいた（経済産業省環境政策課 課長補佐 森川純氏、環境省 地球温暖化対策課 課長補佐 増田大美氏、国土交通省 住宅生産課 課長補佐 宮森剛氏）。経済産業省からはCO<sub>2</sub>削減に価値を付け国内で売買を可能とするJ-クレジットの枠組みについて、環境省からは家庭向けのエコ診断を始めとする民生部門の温暖化対策について、国土交通省からは住宅・建築物の省エネルギー施策についての講演であった。省庁ごとの省エネルギーについての取組について、多角的アプローチによる施策が着実に進行していることが理解できる内容であった。

第三部では、低炭素社会戦略センター研究統括／東京大学工学系研究科教授 松橋隆治より、グリーンパワーモデレーターの創出を軸とする提案政策の概要説明を行った。省エネ推進に関わる各省の取組を横断的につなげて政策デザイ

ンを行うことで、電力自由化の環境下において、有効な省エネ・再エネ進展、さらには系統安定化に資する新事業が展開可能であることが示された。

本ワークショップを開催することで、日英の政策担当者が一堂に会し、日本の家庭における大幅な省エネルギー進展のための包括的な政策を考えるための議論と意見交換をする場を設けることができた。また、ワークショップが契機となって、翌日には、駐日英国大使館が日本の各省・学会の専門家と招聘者2名との意見交換会を開催するに至っている。個別に議論が進んだことについても、ここに感謝申し上げたい。

今回のワークショップでは、日本に適したデザイン、家庭への与信問題、リース等による高い手数料・利子の問題等が課題として明らかになった。今後は、個別にその解決策を話し合うミニワークショップを開催するとともに、個別ステークホルダーとの対話を進め、日本の家庭部門、さらには業務部門における包括的な省エネルギー政策の実現を目指してゆきたい。

最後に、本ワークショップに際し、後援をいただいた文部科学省、駐日英国大使館、JST 研究成果展開事業センター・オブ・イノベーション(COD)プログラム拠点の九州大学に深く感謝の意を申し上げたい。

2014年9月

独立行政法人科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター